

別記様式(第2条関係)

瑞穂市食育推進会議会議録

審議会等の名称	第 4 回 瑞穂市食育推進会議
開催日時	平成21年12月24日(木曜日) 午後3時00分から5時00分
開催場所	瑞穂市総合センター5階 第4会議室
議 題	(1) 瑞穂市食育推進計画の素案について (2) 次回の会議について (3) その他
出席委員 欠席委員	出席委員(会長)小川宣子、石山絹子、大野和代、加藤悟、加藤嗣泰、 小林京子、千田美穂子、林春代、広瀬弥恵子、松久智子 欠席委員(副会長)福野寿英、馬場晴美、棚橋和子、堀口峯子 河野秀明
公開の可否 (非公開理由)	可
傍聴人数	0 人
審議の概要	(1) 瑞穂市食育推進計画の素案について ・第1章から資料編までの全体について
事務局 (担当課)	瑞穂市 市民部 健康推進課 TEL : 058-327-8611 FAX : 058-327-4556 e-mail : kenkou@city.mizuho.lg.jp

平成21年度 第4回瑞穂市食育推進会議 会議録

日 時 平成21年12月24日(木) 午後3時から午後5時
場 所 瑞穂市総合センター5階 第4会議室
出席者 (会長) 小川宣子、石山絹子、大野和代、加藤悟、加藤嗣泰、小林京子、
千田美穂子、林春代、広瀬弥恵子、松久智子
欠席者 (副会長) 福野寿英、馬場晴美、河野秀明、棚橋和子、堀口峯子
事務局 3名
傍聴人 無

1. 挨拶

2. 議題説明

3. 議題

(1) 瑞穂市食育推進計画の素案について

(会長) では今日の会議でおおまかなことを決めていきたいと思います。目次をみていただくと、若干前回と組み立てが変わっている箇所ありますので、1ページずつ確認していきたいと思います。まず第1章ですが何か変更はありますか。

(事務局) 第1章はないです。

(会長) 第1章は前回協議したままとなっています。その後何かお気づきになられた点がある委員はいますか。

では細かい言葉遣いなどは別として、主旨としてはこれでよろしいでしょうか。それでは第2章にはいりたいと思います。2章は3ページから9ページまでです。農業の記述について増えたのと、図の差し替えがありました。その他に変更点はありますか。

(事務局) 訂正はないです。

(会長) 2章につきましては農業についての内容が今回初めて資料を見ると思いますが、何か意見はありますか。

(石山委員) 朝市のところですが、具体的にどこで行っているか場所は書かないのですか。また3ページに瑞穂市農産物生産量のグラフがありますが、そこにでてきている野菜と文章中にでてくる、朝市で売られている野菜の種類と違うが、どうつながっているのですか。

(会長) 朝市の場所を明記しないかということと、朝市で売られているものが書かれている文章と、瑞穂市農産物生産量のグラフの農産物との整合性はどうなっているか。という2点の質問ですね。

(事務局) 朝市についてですが、市では現在これからの方向性を決めるために審議会を開いております。場所としましては1箇所ありますが、場所が変わったり、増えたりする可能性があるため、今の時点ではこのま

まの表現がよいかと思ひまして、あえて場所は書きませんでした。2点目ですが、グラフは瑞穂市の生産量を表しており、文章中に出てくるものは朝市で売られているものが書かれています。

(会長) 石山委員よろしいでしょうか。

(石山委員) はい。

(会長) しかし、9月から始まっているならば、9月から〇〇で始まっていると標記するのは可能かと思ひます。それから、朝市では鮎も売られているのですか。

(事務局) 冷凍の鮎が売られています。

(会長) 朝市に売られているのですか。店頭にはこういうものが売られているという文章の中の店頭というのは、朝市のことを指していると思ひますが、そうすると朝市で一般的に売られているものがここに標記されているとイメージします。そこに急に、鮎がでてきているので、このあたりをよく精査していただいて、よく朝市に売られているようなものを優先的に書いて、例えば鮎が売られていることがこの朝市の特徴ならば書かれていても良いかと思ひますが、この辺の書き方を福野委員と相談して決めていただきたいと思ひます。ご意見ありがとうございます。

(大野委員) 去年の9月から巢南で農産物直売所が開かれていると思ひますが、そのことについては記載されていないのですか。

(事務局) ここでの記載はその農産物直売所について書かれています。

(大野委員) それでしたら、鮎は売られていますよね。

(事務局) またこの朝市に関しては、今日欠席の福野委員と市の担当者と表現の仕方を確認いたします。

(会長) はい、それではお願いします。その他に意見はありますか。

(林委員) 瑞穂市の農産物の中で柿が有名だと思ひますが、その直売所では柿を中心にやっていたと思ひますが、文章の中に柿を記載したほうが良いのではないのでしょうか。また、冬野菜も記載されていないと思ひますが。

(会長) それではその辺のことも含めて、福野委員と相談してもらおうということでもよろしいのでしょうか。他にありますか。

(大野委員) 5ページですが、これを見ますと瑞穂市の3歳児の朝食欠食率は、岐阜県と比べて3倍ほど高いということと、小学生の朝食欠食率はH20年度は3.1%でH21年度では9.1%ととても高くなっていますが、この辺はどう考えていけばよいのでしょうか。

(会長) これはこういう現状だということなので、このような現状を踏まえて、今回、食育をどうしていくかということになると思ひます。よろしいのでしょうか。

(大野委員) はい。

(会長) それではデータが5ページから9ページまでありますが、何かご意

見ありますか。

(大野委員) 8ページですが、肥満とやせについてという題になっていますが、肥満についてはデータが載っていますが、やせについてはどこを見れば良いのでしょうか。

(会長) 次のページの「出産予定者の妊娠前の体格」のデータの中にでてきていますね。

(大野委員) そういことですね。わかりました。

(会長) それでは次に進めます。

(加藤(悟)委員) すみません、9ページですが、「男性は、肥満者の割合は全国平均とほぼ同じですが、全国平均は減少気味になってきているのに対して、瑞穂市は増加傾向にあります。」とありますが、データを見ても増加傾向があるようにみえないのですがどうですか。

(会長) 事務局お願いします。

(事務局) 急激に上がっているわけではないのですが、50、60、70歳代以降は、全国は減少していますが、瑞穂市は増加傾向にあります。

(会長) 40歳代は違いますが、50歳代以降は19年度と比べて、20年度は増加傾向ということですね。

(事務局) はい、そうです。

(加藤(悟)委員) そういことですね。

(会長) それでは文章中に「50歳代以降は」と追加しましょうか。

(加藤(悟)委員) そうですね。

(会長) 細かいところまでありがとうございます。それでは次にいきたいと思ひます。第3章の10、11ページですが、ここは前回までから訂正はありますか。

(事務局) 訂正はないです。

(会長) 10、11ページは前回ご検討いただいた内容となっています。何かありますでしょうか。

それでは12ページにいきたいと思ひます。それでは前回までからの変更点などの説明をお願いします。

(事務局) 前回までは、目標と取り組みについて別々の章で構成していましたが、わかりやすくするために、ライフステージごとに、左のページに目標、右のページに取り組み内容を記載することとしました。青年期～高齢期に関しての取り組みは、取り組み内容がライフステージをまたぐものもありますので、それぞれに分けずに一緒にしてあります。

(会長) では妊娠期のページで前回から訂正している点はありますか。

(事務局) 訂正はないです。

(会長) それでは只今説明がありましたように、前回までは3章に目標、4章に取り組み内容が書かれているという構成でしたが、わかりやすくするために、ライフステージごとにそれぞれ目標のページがあり、その隣のページに「みんなの応援」という形で、取り組み内容が書かれて

いる形となりました。このような形式に変更するということにご賛同いただけますか。よろしいでしょうか。それではこのような形式で進めさせていただきます。では先ほど説明がありましたように、妊娠期に関しては、前回から変更点はないですが、今改めて見て何かご意見はありますか。またみんなの応援は各委員から意見をいただいたものを整理された形となっています。例えば「妊娠中の健康管理（口腔ケア、体重管理、お酒・タバコについてなど）や食生活などを相談・学ぶ場をつくります。（行政）」という取り組みがありますが、ここでは「行政」としか書いていませんが、地域や家庭でもできる。など追加できることがありましたら、事務局に言ってもらえば追加させていただきますがどうですか。

(石山委員) 1番上に「上の児の健診・相談時」とありますが第1子の子のことでしょうか。意味はわかるのですが、「第1子」など他の書き方はないでしょうか。

(林委員) 第1子だけではなく第2子の子とかの場合もあるのではないのでしょうか。

(会長) それでは他の表現が何かあると思いますので、「上の児」という表現を変更していただきたいと思います。他にお気づきの点はございますか。

それでは次の乳幼児期について訂正・変更ありますか。

(事務局) 具体的な目標の中の「虫歯予防のために、しっかり歯磨きをしましょう。」を前回意見がありましたように、「虫歯予防のために、歯みがき習慣をつけましょう。」に変更しました。

(会長) 後は先ほども説明がありましたように、右のページにみんなの応援が追加されているということですね。また追加等ありましたら事務局の方に言っていただければと思います。

(大野委員) 瑞穂市の3歳児の朝食欠食率が県と比べて高いので、そのことを目標とみんなの応援にも入れてはどうでしょうか。

(会長) それではこの乳幼児期の、朝食欠食率の高いことに対する目標とみんなの応援の具体的な案をお願いできますか。

(大野委員) 大人でも夜遅くまで起きていて間食などしてしまい、朝中々起きられず、朝食を作る時間がなく食べれないこともあります。3歳児に朝食の準備をさせるのは無理なことなので、親がしっかり用意することが大事だと思います。それをどういう形で目標等に取り入れるかは中々思いつかないですが何か良い方法はありますか。

(林委員) 確認ですが、体内時計が確立する時期というのはこの時期なのでしょうか。

(会長) 3、4歳ですね。そうすると、生活リズムをまず整えることが大事になってきますね。

(林委員) 私もそう思います。

- (会長) 生活リズム等のことは学童期以降も共通的なこととなりますね。
- (大野委員) 中日新聞や岐阜新聞などにも書かれていましたが、日本の2歳児以降の子の就寝時間が10時を過ぎるということが外国と比べてとても高く、子どもが起きているということは大人も起きているということで、次の日大人も朝起きれていないということになります。
- (松久委員) スーパーでも夜遅くに子どもを連れている親もいますね。
- (会長) ただこれがライフステージ別にその時期にあった目標などを決めているので、学童期ですと「早寝・早起き・朝ご飯を実践し、規則正しい生活リズムを定着させましょう。」ということが入ってきています。乳幼児期ですと、例えば「生活リズムがしっかり定着できるよう保護者をサポートする」など挙げられると思います。ただ対象がお母さんではなく乳幼児期の子どものため、表現が難しいですね。何か良い案はありますか。
- (大野委員) みんなの応援のところにに入れていくべきだと思いますが。
- (会長) 目標に追加した上でみんなの応援に入れるという意見でしたよね。目標が大事になってくると思います。朝からしっかり食べましょう。ということは書いてあるので、生活リズムを確立しましょう。などを追加していくことになりそうですね。他に良い案はありますか。
- (加藤(悟)委員) 14ページには目標の前に、この時期はどういう時期かということで、「人格や生活習慣の基礎ができる大切な時期です」や「食習慣の乱れが既に見え始めています」ということが書かれており、このことを踏まえて目標が決められていると思いますが、目標には朝食のことだけで生活リズム等のことは含まれていないので、そのあたりを含められたらと思います。
- (会長) そうですね。朝からしっかり食べましょうの前に生活リズムを整えということを入れて、「生活リズムを整え、朝からしっかりたべましょう」というようにしても良いかと思います。そうするとわかりやすいかもしれないですね。どうでしょう。
- (大野委員) 良いですね。
- (会長) 良くなりましたね。それでは次が、みんなの応援の中に生活リズムを整えられるようサポートできる内容を入れたほうが良いというご意見ですが、どこに入れましょう。「保護者に食の大切さを知ってもらう場をつくったり、情報提供をします。」の応援の中に「食や生活リズムの大切さを知ってもらう」と追加すると良いでしょうか。
- (大野委員) そうですね。保護者に知ってもらわないといけないのでここで良いと思います。
- (会長) それでは、生活リズムに関しても追加しましょう。良くなってきましたね。他にご意見ありますか。
- (加藤(嗣)委員) 字の訂正ですが、15ページの「専門家による歯についての話しや」の話し「し」はいらぬと思います。

(会長) 細かいところまでありがとうございます。ではその他によろしいでしょうか。では次のページの学齢期についてご意見を伺いたいと思います。始めに事務局の方向か訂正等ありますか。

(事務局) 具体的な目標の「食後の歯みがきを習慣づけ、虫歯や歯周病を予防しましょう。」と「地域で取れる食材や、地域に伝わる伝統料理を味わいましょう。」を前回の会議で意見をいただいたように表現を変更しました。また資料の訂正ですが、みんなの応援の中の「野菜や米作りなど食べものを育てる体験の場をつくります。」を「野菜や米作りなど食べものを育てる体験の場をつくります。また地域の人たちと学校とが連携し、教育ファームを充実させます。」に、「地域でとれる食材や郷土料理、伝統食について知る機会をつくります。また地域の人たちと学校とが連携し、教育ファームを充実させます。」を「地域でとれる食材や郷土料理、伝統食について知る機会をつくります。」にそれぞれ変更お願いします。

(会長) 前回の会議でご意見があった箇所が訂正されていますが、その他に何かご意見はございますか。

(大野委員) 具体的な目標で、乳幼児期には「いただきます、ごちそうさまが言えるようにしましょう。」とあるものが、学齢期には、「自然の恵みや、生産者、料理をしてくれる人、食にかかわるすべての人に感謝して食べるようにしましょう。」だけで終わっており、いただきますやごちそうさまを言うことが抜けています。私は子ども達に食育に関して活動を行う際に、生産者・料理人・命あるものに感謝していただきますと言いましょ。ということをお教えします。他の命を奪っているということに感謝することはとても大事なことです。

(会長) 具体的にどこをどう直せばよいかの案をお願いします。

(大野委員) 「自然の恵みや、生産者、料理をしてくれる人、食にかかわるすべての人に感謝して食べるようにしましょう。」の目標の中に食事の前にいただきますを言うことが抜けているので、乳幼児期の目標にだけではなく、学齢期にも、生産者・料理人・命あるものに感謝していただきますを言いましょ。ということを入れてほしいです。

(会長) まとめますと、生産者・料理人・命あるものにたいして感謝の気持ちをこめていただきますと言いましょ。ということを追加したいというご意見ですね。1つ前に戻りますが、乳幼児期には意味はわからないけど、マナーとしていただきますやごちそうさまが言えるようになるという意味で目標に入っています。学齢期になるとそれを、きちんと意味も理解して、いただきますを言えるようにということですね。みなさんこのような意見が出ましたがどうでしょうか。

(石山委員) 私は、いただきますとあえて入れなくても、きちんと意味合いは含まれていると思いますので、このままでよいのではと思います。

(林委員) 私も同じです。ただマナーとしていただきますといえるよう、習慣

づけていきたいということでしたら、乳幼児期と重複しますが、入れても良いかと思えます。

(会長) 彼の委員はどうでしょうか。

(広瀬委員) マナーということでしたら、「食事のマナーを理解し、みんなで楽しく食事をしましょう。」の中にいただきますも、手洗いも、後片付けなどもすべて入ってくると思います。

(会長) 松久委員いかがですか。

(松久委員) 大野委員がおっしゃっている命の意味が、生きているものを殺して命を奪って食べているんだということだとわかるのですが、「命を頂き生かされているありがたさ、食の大切さを学びましょう。」と他の目標できちんとそのようなことが含まれているので、あえて命あるものを強調して言わなくてもいいかと思えます。

(大野委員) 現在本やテレビでもたくさんやっているのですが、実際に鶏を殺してチキンカレーを食べるという食育の活動が行われており、そういうところから命の大切さなどわかってくると思うのですが。

(会長) そのことにつきましては皆さんよく理解されているので、ただ、そこで食事のマナーだけではわかりづらいということでしたら、改めていただきますという言葉に標記しましょうか、というのが皆さんのご意見かと思えます。

(林委員) また、みんなの応援の中の「楽しく食事をするためのマナーを身につけます。」という項目に付け足すこともできるかと思えます。しかし、命の大切さというのは、いただきますという言葉を入れなくても、他の目標である「命を頂き生かされているありがたさ、食の大切さを学びましょう。」という文の中できちんと表現はされていると思えます。

(会長) では、加藤委員どうぞ。

(加藤(悟)委員) 乳幼児期はしつけをしていく時期ということで、命をいただくとか、十分には理解できないと思えます。しかし学齢期に入ってくると、野菜や米作り、市場へ見学しに行つて物流を学んだり、色々な体験を通して、様々なもの・人へ感謝の心をこめて言えるようになると思うのですが、そういった意味は今のもでも表現されているかと思えます。ただ、いただきますを強く主張したいということでしたら、マナーの項目に入れるということになると思えます。

(会長) そうですね。では千田委員お願いします。

(千田委員) これはあくまでライフステージ別に決めているので、そうするとくどくなるよりは簡潔にまとめるべきではと思えます。しつけの時期と、命の大切さを分かなければいけない時期とに分けて書けばよいと思えます。何度も繰り返して書くのなら、学齢期だけではなくその後のライフステージのところにまで書かなければならないと思うので、このままで良いかと思えます。

(会長) 小林委員はどうですか。

(小林委員) 先ほど先生もおっしゃっていましたように、乳幼児期は意味はわからないけれどいただきますはマナーとして言えるようになるうねということで、その後、学齢期入って先ほどからでているように、いただきますの意味は何なのかということ考えていくのだと思います。その中で感謝の気持ちが分かりつつ、いただきますにつながっていくのではと思うので、原案のままでよいかと思います。

(会長) 松久委員どうぞ。

(松久委員) 命の大切さについて強調されたいなら、目標ではなくて、取り組み（みんなの応援）の中に「食の大切さについて学習する機会をつくります。」とありますが、このような取り組みの中にとりいれていければ良いのではと思います。

(会長) 加藤（嗣）委員どうですか。

(加藤（嗣）委員) 小林委員が先ほどおっしゃった通りだと思います。自分自身の小さかった頃を振り返りますと、自然の恵みや命をいただいているのだから感謝して食べなさいと言われて育ってはいません。ただ、いただきます、ごちそうさまはきちんと言うようにといわれてきました。今の時代、いただきますの意味までしっかり説明が必要ということであれば、繰り返し伝えていくことは大切なことだと思うので、どこかに取り入れても良いかと思います。

(会長) みなさんの意見はこのままだも良いということですが、いただきます、ごちそうさまを強調するなら、目標でしたら「食事のマナーを理解し、みんなで楽しく食事をしましょう。」を「いただきますやごちそうさまなどのマナーの意味を理解し」という表現にするか、みんなの応援の中に入れていくか、ということになります。

(松久委員) いただきますやごちそうさまという言葉を入れるのではなく、その言葉の裏にある命の大切さというところを、伝えていってはどうかのかなと思います。

(会長) そのことに関しては「食べ物に触れる機会をもち、「命」を頂き「生かされている」ありがたさ、食の大切さを学びましょう。」という目標に含まれていますね。これがいただきますと結びついて、いただきますと言えなければいけないという意味だと思います。

(大野委員) それと感謝して言えなければいけないと思います。そして「自然の恵みや、生産者、料理をしてくれる人、食にかかわるすべての人に感謝して食べるようにしましょう。」という目標には感謝するということが書かれていますが、「食べ物に触れる機会をもち、「命」を頂き「生かされている」ありがたさ、食の大切さを学びましょう。」の文章には感謝という言葉が入っていないですね。命あるものに対して感謝することが重要です。

(会長) ありがたさだけではいけないということですね。ここに感謝という言葉を入れるべきということですね。

- (大野委員) 感謝という言葉を追加するのではなく、2つの文章をくっつけて1つの文章にすればよいと思います。
- (会長) 1つにしてしまうと意味が変わってくるのと、長くなってわかりづらくなってしまいます。みなさんの意見は2つの文章にわけて、このままの方がわかりやすいというご意見です。いただきますの挨拶と感謝の気持ちを結びつけた目標にした方がよいという意見だと思っておりますが、感謝という言葉を入れたほうがよいという意見ということでしょうか。
- (大野委員) はい。そういうことです。
- (会長) 事務局どうぞ。
- (事務局) 自然の恵みというのは、食べものもすべて含まれた意味でして、そうすると、生産者や料理人に対してだけでなく食べものに対しても感謝して食べる。ということになります。
- (大野委員) 自然の恵みというのは植物や野菜ならいいですが、命あるものもここに含まれるのはおかしいと思います。
- (林委員) 自然の恵みには全部入ると思います。
- (松久委員) そう思います。
- (大野委員) たしかに入りますが、こういう表現では違うと思います。
- (林委員) それでしたら「食べ物に触れる機会をもち、「命」を頂き「生かされている」ありがたさ、食の大切さを学びましょう。」を「食の大切さ・感謝の気持ちを学びましょう。」というようにするのはどうですか。
- (会長) そうですね。
- (林委員) ただ感謝という言葉が続きますが。
- (会長) 加藤（悟）委員どうぞ。
- (加藤（悟）委員) 私は原案は、大野委員がおっしゃっている意味が、きちんと含まれたものとなっていると思います。1つ目の文の自然の恵みというのは、生き物をとって私達が食べてしまうということも含まれていると思います。さらに自然の恵みだけではなく、生産者や料理をしてくれる人食に関わるすべての人に感謝して食べようという意味であり、とりわけもう1つの文章では命をいただいているということで、特別に引き出して感謝の気持ちを持つということと、食の大切さを学ぼう。ということだと思っておりますので、あえて感謝という言葉を入れる必要はないかと思っております。
- (会長) どうでしょうか。皆様のご意見は、このままでも感謝の気持ちというものはわかりますよということでしょうか。大野委員よろしいでしょうか。
- (大野委員) はい。
- (会長) では、大野委員の熱い思いをここで理解させていただいて、このままに進めたいと思います。ただ、みんなの応援の中に感謝の気持ちを持てるようにという内容をいれていただきたいと思っております。それでは

次のページ青年期・成人期以降に入りたいと思います。何か訂正・変更はありますか。

(事務局) 青年期・成人期に関してはないです。壮年期は具体的な目標に変更があります。前回の会議でご意見をいただき、「よく噛んで、楽しみながらゆっくり食べましょう。」、「主食、主菜、副菜をそろえたバランスの良い食事をしましょう。」、「薄味にした食事を心がけましょう。」、「魚と野菜を中心に、脂を控えめにした食事にしましょう。」という目標を新たに追加しました。高齢期は訂正はないです。

(会長) では、青年・成人期で何かご意見はありますか。
すみません、私からの意見ですが、前回の会議で言うべきだったのですが、具体的な目標で「食の安全を考え、できるだけ地元でとれた旬のものを食べるようにしましょう。」とありますが、地元でとれたものが必ずしも安全というわけではないと思いますので、例えば、フード・マイレージという言葉を使用して良いなら、「食の安全を考え」ではなく、「フード・マイレージや栄養を考え」とし、フード・マイレージという言葉は網掛けにし、用語解説に載せるとすると良いと思いますが、どうでしょうか。やはり意識するのはこれが一般的な方たちの所へ渡るわけですから、思い入れが偏ってはいけないことなので、地元の食材イコール安心ならいいのですが、安全というのは必ずしもそうではないと思いますので、「フード・マイレージや栄養を考え」という表現に変えたらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

(会長) 石山委員どうでしょうか。

(石山委員) 良いと思います。

(会長) 小林委員どうでしょうか。

(小林委員) 良いと思います。

(会長) 林委員どうでしょうか。

(林委員) とても良い言葉がでてきて良いと思います。

(会長) 広瀬委員いかがでしょうか。

(広瀬委員) 良いと思います。

(会長) 松久委員どうでしょうか。

(松久委員) 良いと思います。

(会長) 加藤委員お二人ともいかがでしょうか。

(加藤(嗣)委員) 良いです。

(加藤(悟)委員) 良いと思います。

(会長) ではそのようにお願いしたいと思います。それでは次に壮年期ですが、前回の会議で、「和食」という言葉を使わないで、どういう食べ方をしたら良いか説明していこうということで、このように変更となりました。どうでしょうか。大野委員どうぞ。

(大野委員) 私はまだ和食にこだわっているのですが、お年寄りでも朝はパンを食べていたり、今は中華や洋食もあるので、薄味にした食事というこ

とですが、郷土料理や行事食などこれから子ども達に伝えていかなければならない食事はみんな和食なので、薄味にした和食という表現の方がよいです。

(会長) 他の委員はこれでどうでしょうか。ポイントとしてはバランスよく食べること、薄味をこころがけること、脂を控えることの3つになると思います。食事バランスガイドでも、ごはんを中心としているわけではなく、パンも麺も入っています。

(大野委員) 1番主にするのはご飯というだけで、いつもご飯を食べなければいけないわけではなく、パンや麺も食べてもいいけど、目標なので和食を中心に心がけるべきだと思います。

(会長) 和食というのはこの3つの目標のことを言っているのだと思いますが。

(林委員) 私はあえて和食と入れなくても良いと思います。この3つの目標で十分伝わると思います。

(大野委員) ではなぜ郷土食を広めるのですか。郷土食というのはイコール日本食ではないのですか。

(林委員) それは違うと思います。郷土食というのは歴史なので。

(大野委員) 歴史ということは昔から日本に伝わっているということで、そうすると、日本食ではないのですか。私が今まで勉強したことでは日本食イコール郷土食イコール和食だと思っていましたが。

(会長) それは違いますね。それと、県が和食を広めていたのは、主食・主菜・副菜など細かいことを言っていると大変なので、わかりやすいキーワードとして和食と言っていたので、このように書く機会があるならばお米がすべてではないのでこのように標記したほうが良いと思います。

(大野委員) 薄味にした和食に心がけましょう。ということなので、すべてをお米にしなればいけないというわけではなく、これは目標なので和食と入れたほうが良いと思います。

(会長) 加藤委員どうぞ。

(加藤(悟)委員) 今の若い人達は和食だけではなく、幅広く色々な食事を取り入れていると思いますので、そういう人たちもいることを踏まえて伝えていくものなので、和食と書かれるよりも、このように分けて書かれているほうがわかりやすいと思います。

(林委員) 今の若い人たちはお惣菜を買ってきて食べていたりもしますので、買ってきて主食・主菜・副菜をそろえた食事に気をつけられたりできれば良いと思います。

(大野委員) そのように買ってきたものを食べているのが現状ですが、しかし薄味に気をつけたくても外で買ってくるものは味付けが濃いです。これは目標としてこのようにしたいということなので、和食という表現の方が良いと思います。

- (会長) 和食と明確に書いたほうが良いというご意見と、この3つの目標でカバーされているのではないかというご意見がありますが、どうでしょうか。広瀬委員いかがですか。
- (広瀬委員) このままで良いと思います。
- (会長) 松久委員どうですか。
- (松久委員) このままで良いです。
- (会長) 小林委員どうですか。
- (小林委員) 私達の立場ですと和食というのはわかりやすく、バランスの良いものとわかるのですが、どうやって取り合わせて食べるのが1番良いのか具体的にわかる目標が、こういうところにあると良いのではと思います。栄養の方からみると、主食・主菜・副菜とそろえられていて、今問題になっている塩分を控えて、脂も控えてねというような具体的な目標の方が、食育で、自分で自分に必要なものを選んで食べることができる人を目指していくなら、このような目標で良いのではと思います。
- (会長) 加藤嗣泰委員どうですか。
- (加藤(嗣)委員) 大野委員の和食に対する意見は十分にわかるのですが、先ほど加藤(悟)委員がおっしゃっていたように、今の若い人たちに和食といっても、もしかしたら難しくとらえてしまう人もいますので、具体的に書いてあったほうがわかりやすいかと思います。
- (会長) それでは前回もここについて話し合い、このようになったと思いますが、今回もみなさんの意見をまとめますと、目標としてはこれでよいのではということなので、この3つの目標にしたいと思います。では次に進みたいと思います。高齢期に関しては変更はないということですが、何かご意見のある方はみえますか。
- では、ないようなので、第4章に進みたいと思います。第4章は前回にはなかった、新しい部分ですね。その後に前回にもあった資料編がきています。事務局から何か説明はありますか。
- (事務局) まず、計画の推進体制についてですが、この計画は、市民が中心となり家庭、保育所・幼稚園、学校、地域住民、生産者、医療機関、行政など、地域全体が一丸となり取り組んでいくこととなります。そのことを表したのがこの図となります。また次のページには、それぞれの役割について記載してあります。また資料編として用語解説、瑞穂市附属機関設置条例、瑞穂市食育推進会議名簿、計画の作成経過を載せてあります。
- (会長) この第4章については事前に委員の皆さんに資料は渡っているのですよね。
- (事務局) はい、事前にお渡ししています。
- (会長) では、お目を通していただいていると思いますが、何かご意見はありますか。

- (石山委員) 推進体制の図ですが、意味はよくわかるのですが、地域の中に食品関連事業者が含まれていますが、今までの文章の中に1度もでてきていませんが、どのように理解すればよいでしょうか。
- (会長) そうですね。地域といっても広いですし、地域の役割の説明でも一まとめになっているので、もう少しくわしく説明する必要がありますね。では他にありますか。加藤委員どうぞ。
- (加藤(悟)委員) それぞれの各関係団体が協力し合うということですが、まとめ役が書かれていないので、標記した方がよいと思います。また、評価について書いてありますが、目標数値などを挙げてどこまでがんばるのかを評価しやすいように、具体的に掲げた方がよいと思います。大変難しいことだと思いますが。
- (会長) そうですね。県なども数値目標を掲げていますが、難しいところですね。でも何か評価がないと、たしかに何ができているのか評価しにくいですね。何を評価にするかということですが、例えば朝食欠食率を何%まで減らすですとか、ちょうど第2章に瑞穂市の食を取り巻く現状ということで、3歳児、小・中学生、成人の朝食欠食率がでていますのでこういうのを数値目標にするのはどうでしょうか。その他に何か提案はありますか。
- 例えば、13ページのみんなの応援の中に、妊娠中の健康管理や食生活などを相談・学ぶ場をつくります。とありますが、今までに何回やってきたのを何回にまで増やすですとか、図書館での子育てに関する本を充実させていきます。とありますが、今年は何冊だったのが何冊にまで充実させる。などを評価にしてもよいと思います。どうでしょうか。加藤委員どうぞ。
- (加藤(悟)委員) 現状としていくつかの課題があるわけで、その課題を解決するためにこの計画ができたと思いますが、難しいことですが、本当はこの課題を解決するための、目標値があれば1番良いと思います。1、2年では中々成果はでないと思うので、5年、10年とかかかるとは思いますが、目標を達成するために行動目標があり、そのために私達はこのような応援ができますよ。というようならば評価もしやすいと思います。
- (会長) 5ページ以降に食生活の現状と課題があるので、そこを目標値に挙げていくということになりますね。現在、課題として挙げているのが朝食欠食率のこと、食に関して気になっていること、また肥満についていれるかですね。それを指標として少しでも数値をよくすることになりますね。また、その他に先ほど例を挙げさせていただいたように、取り組みについて何を何回やってきたというのを、指標にするかですね。加藤(嗣)委員、歯科指導の回数など数えることなどできるのでしょうか。
- (加藤(嗣)委員) 何回やれたということが、どう食育につながるのかを評価するのは難しいところです。

- (会長) 石山委員どうですか。
- (石山委員) 難しいですね。
- (会長) 小林委員はどうですか。
- (小林委員) 食は課題となる場所の数値を出すのがとても難しいところで、県も数値を出していますが、数値で見えていくところは少ないです。瑞穂市も朝食欠食率ですとか、BMIのことくらいで、後はちょっとしたアンケートは比較ができないようなデータしかでていないので、1つは朝食欠食率など、明らかに下げていきたいものを評価として見るのが1つと、食育などの健康計画を進めていく時はみんながどのように動いてきたかということだと思うので、先生がおっしゃったように何かの活動が増えたなどの評価でみるのと、経過評価としてそれぞれの地域団体でどういう風に動いて、実際にどのようなことができたかということで、例えば「妊婦さんがいるところではたばこを吸いません」とありますが、他の地域で自治会さんが公民館には灰皿を置かず外に置くことにしたという活動が、このような計画の中でできたのですが、このような動きを毎年か何年後なのか、みんながどのように動いてきたかの結果を積み上げていくという3つくらいの評価で見えていき、最終評価のときに、少しでも瑞穂の全体が食育に対して関心が高まったということをどこかで評価できるといいと思います。
- (会長) それでは、朝食欠食率についてはデータもありますし、評価の指標にできるかと思います。
- (大野委員) 県では3歳児の朝食欠食率は0%をめざしていますが、瑞穂市は県平均と比べて3倍近く朝食欠食率が高いので、せめて県平均にするということ、目標にするということですね。
- (会長) 県が0%を目指しているので、それは市も0%を目指さなければいけないですね。指標として何を指標とするかということで、3歳児・小中学生の朝食欠食率、また今後各団体に依頼をする時に、みんなの応援を項目に挙げ、どういうことをされたか記入式でもいいので書いていただき、それをまとめていくということになります。そのため、次回までにみんなの応援のページをもう1度しっかり目を通していただいて、これはできないということ、こんなことはできるというのを追加していただきたいと思います。小林委員がおっしゃるように数字というのはでにくいところなので、どういう努力をしてきたかという記載も含めて評価をしていくことになると思います。どうでしょうか。
- (石山委員) やはりしつこいくらいに食育の大切さをみんなに言っていくのが大切かなと思います。評価は難しいですが、イベントなどがあるときにこういう風にやりましょうということをアピールし、横の連携も活用してやっていくのがいいかなと思います。文化祭などもあると思いますが、そこへ食育も組み込んでいければと思います。大野委員が言われているように、食というのは命に関わることなので第1に考えたい

と思います。

(会長) それでは評価の部分は何を指標とするかなどまとめていただき、もう少し具体的にしてもらおうのと、加藤委員がおっしゃっていましたように、この食育推進会議の位置付けとして、計画を立ててやりっぱなしではなく、フィードバックされてきたことをもう1度検討するかどうか、協力体制をつくっていくということで、瑞穂市の総括として位置付けられることになると思います。

(事務局) やはりこの会議は計画を作るためだけのものではなく、食というのはとても大切なことなので、それを1人にでも多くの人に広めていくためにも、この会議もこれで終わりというわけではなく、みんなで作り上げていくものだと思いますので、またご協力お願いします。

(会長) それでは推進会議の位置付けの追加をお願いします。他にございますか。

(林委員) 7ページにアンケート結果が載っていますが、みんなが食について気にしているところで、食べ過ぎ、バランスが悪いですとかありますが、一般の方を対象とした食事バランスガイドの利用の仕方を普及するだとかの目標を入れれると良いと思うのですが。

(会長) それは目標ではなく、みんなの応援の中に入れていく方が良いでしょうね。食事バランスガイドだけではなく、赤・黄・緑にわけたものですか、色々ありますので、みんなの応援の中に入れていくのが良いでしょうね。

(林委員) その方がいいですね。

(会長) その他にありますか。

(加藤(悟)委員) みんなの応援のページですが、このページにも、妊娠期のみんなの応援、乳幼児のみんなの応援などのように「〇〇期」と入れたほうがわかりやすくなると思います。

(会長) そうですね。ありがとうございます。

それでは、4ページの農業についての修正と、みんなの応援の整理と、評価について事務局には案を作ってくださいますが、みんなの応援の中の追加・削除、評価について何を指標にしたら良いかの案がありましたら、次回の会議までに事務局のほうへお願いします。では、これで終わらせていただきます。みなさん色々な思いがあると思いますが、広く知っていただくために、平均的になってしまいがちですが、偏ったものではなく、平均的な表現ができたのではと思います。

(事務局) 本日は年末のお忙しい中ありがとうございました。回を重ねる度に皆様から良い意見をだしていただき、食育推進計画をみなさんで作り上げていくのに大変力強く思います。次回、1月22日で最後となりますがよろしくをお願いします。